

## K-8番 要約

(平成26年10月現在)

- 1 被害者  
匿名：1999年7月18日生 接種時中学1年生（12歳）現在15歳 福岡県北九州市在住
- 2 ワクチン接種前の健康状態等  
健康（ほとんど休むことなく通学、小学6年生のころからダンスを習う。）
- 3 接種  
サーバリックス2回（平成24年5月24日、同年8月2日）
- 4 経過概要  
2012年  
5月24日 1回目のワクチン接種。このときは接種時に通常より強い痛みを感じただけ。  
8月2日 2回目のワクチンを接種。直後から吐き気、寒気、疲労感を認め、その日のうちに接種した小児科を受診。  
8月末頃 接種した腕が上がらず、体を移動するような痛み、疲労感等が続いたことから、近隣の大学病院を受診し、CRPSと診断される。大学病院の系列病院にてリハビリ治療を受け、腕の痛みは緩和したが、頭痛、疲労感、寒気等の症状は治まらず。  
2013年  
1月29日 栄養療法外来を受診。サプリメントを処方される。  
1月30日 学校にて失神する。  
2月上旬頃 自宅にて失神する。近くの総合病院を受診するも、原因不明。  
2月18日～3月1日  
総合病院にて慢性疲労症候群と診断され、約2週間入院。同病院では栄養療法だけで症状の改善はなし。  
中1の3学期から休学。病状について友人らから理解されず、怠学と思われ、悩むようになる。その結果、次第に引きこもるようになり、自殺をほのめかすようになる。  
11月27日～2014年1月17日  
精神科病院に約2カ月入院し、適応障害と診断される。睡眠導入剤や漢方薬を投与される。同院にて初めてワクチンとの因果関係を指摘される。
- 5 これまでに発症した主な症状  
全身に移動する痛み、頭痛、疲労感、体の震え、動悸、腕が上がらない、足が動かない、生理不順、耳鳴り、聴覚過敏、めまい、記憶力の低下、無気力、不眠、過眠、視覚過敏
- 6 受診医療機関  
8か所（小児科、内科、麻酔科、整形外科、栄養外来、婦人科、精神科）
- 7 現在の生活状況  
2014年4月から通学再開するも、秋頃から症状が悪化し、9月下旬から再び休学。

## K-8番（福岡県北九州市）

（平成26年10月現在）

### 1 はじめに

私は、中学3年生で、北九州市に住んでいます。

中学1年生の春に、学校と北九州市から子宮頸がんワクチンの接種をすすめる案内のチラシをもらったことがきっかけで、平成24年5月に1回目のワクチンを接種し、その年の8月に2回目のワクチンを接種しました。

### 2 ワクチン接種後の症状

2回目のワクチンを接種した後のことです。私は、そのまま塾に行ったのですが、次第に体がだるくなり、吐き気を催し、さらには寒気もするようになりました。私は机につっぷしたようになって、上半身を起こすこともできなくなりました。

その後に記憶が飛ぶことが増えたこともあり、私はそれ以後のことはあまり覚えていないのですが、後で母から聞いたところによると、母が塾まで迎えに来てくれ、その日のうちにワクチンを打った病院に連れて行ったそうです。病院では、これといった原因はわからなかったと聞いています。

### 3 さまざまな病院を受診したこと

私の体調は、その後も良くなることはなく、体のだるさ、寒気、吐き気、頭痛、体を打ち付けられるような痛みが続きました。接種した右腕は痛くて上がらず、力も入らなくなり、鉛筆さえ持てなくなりました。また、2回目の接種の後から、2、3日前のことが思い出せなくなり、母に尋ねることが多くなりました。

そのため、私はさまざまな病院に行き、たくさんの検査を受け、いろいろな治療を受けました。複合性局所性疼痛症候群（CRPS）と診断されたり、慢性疲労症候群と診断されたりしましたが、はっきりした原因はわかりませんでした。右腕は、リハビリのおかげで動かせるようにはなりましたが、頭痛や吐き気、きつさやだるさは治まりませんでしたし、過呼吸になったり、光が異常にまぶしく感じたり、耳鳴りがしたりしました。人の話し声が異常に大きく聞こえてびっくりするということが頻繁に起こりました。これまでに2度失神して倒れるということもありました。また、痛さときつさなどで24時や深夜1時になっても眠れないことが多くなり、朝になっても自分で起きることができず、母に上半身を起してもらわないとお昼の12時過ぎくらいまで眠り続けてしまうようになってしまいました。そのため、中学1年の3学期が始まった平成25年1月ころから学校にほとんど行けなくなってしまいました。

### 4 学校へ行けなくなったこと

平成25年の春に、中学2年生に進級しましたが、一日も学校に行くことができず、事実上休学することになりました。自宅で横になっていても、痛みやだるさが治まることはなく、何をしてもきつと感じる毎日でした。ただ自宅で横になって体の痛みやきつさに耐えるしかありませんでした。

私が学校を休むようになってから、友達から相手にされなくなり、私が体の痛みやだるさ、きつさのために学校に行けないことも、理解してもらえず、ずる休みをしていると思

われていました。

何をしても体の痛みやだるさ等はよくなり、学校にも行けず、したいこともできない。そんな毎日を過ごすうちに、私は誰にも会いたくないと思うようになり、次第に自分の部屋に引きこもりがちになりました。不安や辛さに襲われ、自傷行為をしてしまったこともありました。

家族にもひどく心配をされ、私も、このままでは自分が自分でなくなってしまうと思い、平成25年11月下旬から平成26年1月下旬にかけて、精神科病院へ入院し、自分の体の不調に適応できないということで適応障害と診断されました。この病院で初めて、私の体の不調の原因が子宮頸がんワクチンではないかと言われました。

体の痛み、だるさ、きつさが少しはおさまってきたことから、中学3年生に進級した平成26年4月から学校に行くようになりました。遅れていた勉強を取り戻したり、友達と話をしてきたくて、体調が悪くても、無理しても学校に行きました。それでも、夕方になると体のだるさと疲れでぐったりしてしまい、家に帰り着くと、そのままベッドに倒れ込んでしまっていました。

平成26年9月中旬ころから、再びだるさや吐き気、頭痛や腹痛、手足のしびれ等の不調が出てくるようになり、9月下旬からまた学校に通うことができなくなってしまいました。今も、学校にはまだ通えていません。

## 5 おわりに

私には、夢があります。大きくなったらやりたいことがたくさんあります。

しかし、ワクチンを接種してから、それまで当たり前のようにできていたことができなくなってしまいました。私はまだ15歳なのに、できないことがいっぱいあるのです。それでも、私の体は見た目では今までと変わらないことから、ワクチンを接種したからこんな体になったと言っても、誰も理解してくれません。友達からはずる休みをしていると思われていた時期もありました。

家族も、私を支えるために必死で、時には甘えているとか、自分で病気を作っているとされたこともありました。家族にもわかってもらえないことがとても悔しくて、死にたくなるようなときもありました。

私は、ワクチンを接種していなければ、これまでと同じように学校に通うことができました。家族ともこんな喧嘩をせずにすみました。

私は、元気だったころの体に戻れるようにしてほしいです。この苦しみから解放されるなら、どんな治療でも頑張ります。そして、いつかは、ワクチンを打っただけでこんなに人生が一変してしまったことの苦しみや悲しみを、家族や友達や、たくさんの人達にわかってもらえたらいいなと思っています。